

ものとのかわりを大切にした家庭科の学習

—第5学年「気持ちのよい住まい方」の実践から—

須崎 恵子

1 はじめに

子どもたちはたくさんの物に囲まれ物とかかわりあいながら生活している。家族の生活に必要な物や道具もあるであろうし、自分の勉強や遊びのための物もあるであろう。それらの持ち物をきちんと整理できているだろうか。また、 unnecessary物まで数多く持ちすぎているだろうか。

「物を大切にしよう」という言葉はよく聞かれるがそれはどのようなことをすることなのかものとのかわりについて子どもたちと一緒に考えてみたい。

2 実践の概要

(1) 単元について

本単元では物の整理の仕方を学び、実際に家庭で自分の身の回りの持ち物を整理・整頓することで安全に気持ちよく生活できるということが分かることを目指している。また、整理・整頓をするとごみのほかに不用品が出るがその適切な処理のしかたやごみを少なくする工夫についても考えることをねらいとしている。

本学級の児童は、アンケートによると65%近くが自分の部屋の掃除は家族に任せていると答えている。整理・整頓された部屋で勉強したり生活したりするのは気持ちが良く効率も上がると知っているが、毎日きちんと自分の持ち物や部屋を整えるのは苦手の児童が多いようである。そして、掃除をするとごみや不用品が出るが、ごみの分別の仕方について正しく理解できていると答えた児童は少数で、大部分の児童は家族にお願いしているようである。また、ゴミ集積所まで家族に頼まれてごみを出しに行ったときにルールを守らないごみの出し方をしているのを見て、いやな思いをしたと答えた児童も多いた。

そこで、本題材では地域社会の一員として気持ちよく生活するためには、ごみのしまつやごみを減らす工夫をどのようにしたらよいのか、どんなことが自分にできるか考えられるようにしたい。

(2) 指導目標

- 1 持ち物の分類や置き方などを工夫し、整理・整頓ができるようにする。
- 2 よごれの種類やよごれ方に応じたそうじのしかたがわかり、家庭でも実践できるようにする。
- 3 近隣の人たちと互いに住みやすい環境にするために自分ができることについて考えることができるようにする。
- 4 環境保全の立場から不用品の活用やごみの処理や活用のしかたがわかる。

(3) 指導内容と計画……………全7時間（本時 第三次 第2時）

- | | |
|-----|--------------------------|
| 第一次 | 身の回りの物を調べてみよう（2時間） |
| 第二次 | 身の回りを整えよう（2時間） |
| 第三次 | 不用品の活用やごみのしまつを工夫しよう（3時間） |

(4) 授業設計の焦点

本時の学習ではある男の子（りゅう君）の家庭をモデルとし、ごみ集積場へのごみの出し方という生活上の問題をきっかけにして正しいごみの始末のしかたやその必要性について考えることができるようにする。

(5) 仮説

仮説	ごみ集積場へのごみの出し方という身近な問題を、具体的な問題場面のロールプレイを取り入れて話し合う活動をするならば、自分の生活とのかかわりでごみのしまつについて考えを深めることができるであろう。
----	--

(6) 授業の概要

① 第一次 自分の身の回りの物を調べてみよう。

身の回りのものについて
調べてみよう



身のまわりがちらかって困ったことはないか、それぞれの経験を思い出し、どのようにしたら、気持ちのよい生活ができるか考えた。

子どもたちのそれぞれの生活の中で物をむだにした経験や大事なものの置き場所が分からなくなったことがあると答えていた。

その他

使えるけしゴムが何も出てきて
へやのすみ、こがほこりまでいっぱいだった。

② 第二次 身の回りを整えよう

教室や自分の部屋をそうじのしかたを考え、計画を立て実践する。整理してでてきた不用品・ごみはどのように始末したらよいか予想する。

★宿題

あなたの家に合った整理・整頓やそうじをくふうしてみましょう。

11月6日 場所: 自分部屋

整理・整頓やそうじのくふう

◆気づいたことや感想
いろいろなものを分けるためにある箱は、あまり小さすぎるとゴチャゴチャしてきたものから、少し大きめにしよう。

◆家の人から
いつでも常にせいせいといふと、継続してやる力をくれる。

③ 第三次 不用品やごみの始末を考えよう。

りゅう君とお母さんとの会話の続きを考え、不用品やごみのしまつの工夫を考える。また、不用品の活用のしかたについて調べる。

ア 本時のねらい

具体的な問題場面のロールプレイを通してごみの処理のしかたについて考えることができる。

イ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き か け
<p>1 りゅう君の家が困っている問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの立場で意見を交換する。 <p>2 問題がおこらないようにするためのごみの分別について考える。</p> <p>(1) 各班で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使ってごみの分別を試みる。 <p>(2) 班毎に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板にごみを描いた絵をグループ分けする。 ・他の班と違う意見を持つ班があれば、なぜそう考えるのか話し合う。 <p>3 なぜごみを分別しなければいけないか考える。</p>	<p>1 身近で具体的な問題としてとらえられるようにするために問題場面の台本を考え、ロールプレイでイメージ化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台本には分別をする人（お母さん）と分別をしない人（りゅうくん）を登場させる。 ・それぞれの言い分を考えるように投げかける。 <p>2 考えを深めることができるように、次の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめやすくするために資料をわかりやすく示す。 ・さまざまなごみを絵カードにして提示する。 ・机間指導をし発言を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表を肯定する言葉かけを行う。 ・地域により分別のしかたが違う場合もあることを伝える。 <p>3 ごみを分別しないとどんな問題が起こるか考えるように促す。</p>
<p>(次時の学習) 不要品の活用の仕方について考えよう。</p>	

ウ リゅう君とお母さんの会話文

RYU君とお母さんの会話を考えよう

時：2001年11月18日（日）の午後

場所：RYU君の家のリビング

登場人物：RYU君（小学5年生の男の子）、お母さん

RYU君は自分の部屋を掃除して出たごみを分別しないでそのままごみ集積場に出したが、ごみ収集車が収集してくれなかったためそのまま残されていた。それに気がついたお母さんがごみを家に持って帰った。

お母さん

「RYU君が出したごみがごみ集積場にそのまま残されていたので持って帰ったのよ。黒いビニール袋の中をのぞいたら、バナナの皮、まんが雑誌、小さくて着られなくなったズボンそれからビデオのカセットがいっしょに入っているけど、君はごみの出し方を知っているのかな？」^{RYU君}

「何言っているのよ。分別しなかつたら

どんな問題がおこるか知らないの？」

「分別のしかたはだいたい人や地球に

悪いえいきょうをおよぼすのよ。

ダイオキシンのように、プラスチックも、

ちやすど出てくるようなものが

その例としてあげられるね、だから」

分別をするのよ。」

RYU君

「だってごみの分別のしかたを知らなかったし、

早くゲームをやりたいめんどうさかたんだもん。

それに分別しなかつたら、たいてい問題

ないんじゃない？」

「なにを？ どんな問題がおこるの？」

「え？ 出るごみの中にプラスチックが

入らないようにするために半透明の袋を

使ったあ、このごみはどう分ければ良かったの？」^{入れるんか？}

エ 自分たちの住んでいる自治体のごみの分別のしかたを調べてみよう。(第三次第2時)

子どもたちは広島市だけではなく安芸郡から通学してくる児童も多くいる。そこでそれぞれが住んでいる自治体のゴミの分別表を持ちより分別の方法が違うことに気づいた。また、マンションに住んでいる児童の中にはゴミを出すのは曜日が決められておらず、きちんと分別してあればいつ出してもよいという決まりなのだと教えてくれた。

しかし、ごみの出し方はそれぞれであってもその自治体の分別の仕方を守り迷惑にならないよう気をつけてごみを出そうという感想が多くの児童から出された。

児童の感想より

- ・住んでいるところによってごみの出し方や名前の付け方が違うなんて初めて知った。
- ・教科書の写真では中身が見えるようにゴミ収集ぶくろが半透明だった。また、ゴミ袋に住所や名前を書かなければいけないところもあるそうだ。ごみの出し方に責任をもたなければいけないのだと思った。
- ・一人が一日に出すごみの量は1500グラムで一ヶ月では45キログラムにもなるそう

だ。ごみの処理費を減らし環境を守るためにもごみを出す量を減らさないといけな
いと思った。

オ 不用品の活用について調べよう（第三次第3時）

生活の中から出てきたごみや不要品はすぐに捨ててしまうのではなく、再利用したり不
要品を活用していくことによってごみの量を減らしていくことができるという意見が数多
く出されていた。

不用品を活用するくふう

- ・着られなくなった服はぞうきんにする。
- ・広告の紙の裏は計算用紙にする。
- ・あきびんやあきカンは再利用できよう
きちんと分別して出す。
- ・生ゴミは肥料にする。

ごみを少なくするくふう

- ・えんぴつやけしゴムは最後まで使
い切る。
- ・不必要なものは買わない。
- ・小さくて着られなくなった制服は
下級生の人にあげる。

3 考察

この実践を、授業仮説に照らして考察していきたい。

(1) ロールプレイを通して自分のごみの出し方の問題点に気づいたか

りゅう君の立場でごみの出し方を考える場合、分別の仕方を知らないという意見や面倒
だから分別なんかしたくないという意見が多く出されていた。自分の部屋の掃除を家の人
に任せている児童が多い中で、ごみの分別の仕方まで知らないのは当然であろう。しか
し、授業を進める中で無責任なごみの出し方をしていると周りのひとへ迷惑をかけるだけ
ではなく、自分たちが住んでいる大切な自然環境にも大変大きな影響を及ぼしてしまうこ
とに気がついていた。

さらには環境ホルモンやダイオキシンという事象に興味を持ち、図書室で調べる児童も
いた。一人一人がごみの出し方に責任を持ち、量を減らす工夫をすることで安全な環境を
守っていくことができるのだということに気づいたようであった。

ロールプレイを使った学習で違うグループの意見を聞いたりすることもでき、自分の考
えを深めていくことができた。

(2) 自分の生活とのかかわりでごみのしまつについて考えを深めることができたか。

きちんとごみを分別して出すことも大切だが、一人一人が出すごみの量を減らしてい
くことも環境の保護に役立つことなのだという事に気づき、自分たちの生活に中でどのよ
うにすればごみを減らしていくことができるかについて具体的に話し合うことができた。

4 おわりに

ごみの収集所にごみをきちんと分別して出すという、日常繰り返されている家庭の仕事
ではあるが、各家庭や一人一人がルールを守ることにより環境の保全に大きく役立つのだ
と子どもたちは実感したようだった。